

南海トラフ巨大地震に備えて

大津波警報・津波警報発令中は高い場所で避難の継続を！
東日本大震災で被災された方のお話によると、大津波警報発令中にもかかわらず、なかなか津波が来ないからと避難場所から自宅に戻り、津波被害に遭われた方が多数おられたようです。福島区でも南海トラフ巨大地震発生後、約2時間で3mもの津波が到達すると想定されています。テレビ、ラジオ等で津波に関する情報を収集していただき、大津波・津波警報発令中は、避難場所から離れないようにお願いいたします。

頑丈な高い建物へ避難

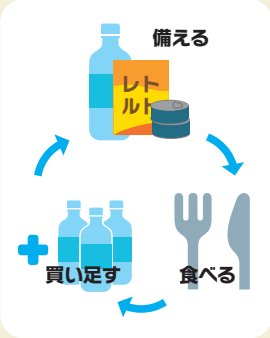


津波が発生した場合は、速やかにマンション等の高い建物の3階以上に避難して下さい。
また、事前にお近くの津波避難ビルや避難場所の確認をしておきましょう！

福島区
避難所一覧の
ホームページ



在宅避難のすすめ



災害時、学校などが避難所となりますが、その環境は決して良いものではありません。自宅が無事なら、なるべく住み慣れた家で避難生活を送りましょう。そのため、ローリングストックで普段の生活に備蓄を取り入れましょう。最低3日間、なるべく1週間分の食料や水を備蓄しましょう。また停電時はカセットコンロがあると便利です。

中学生体験学習事業に参加した生徒の皆さんに、感想文を書いてもらっています。当リーフレットでは、今回の事業の代表を務めていただいた生徒の感想文を紹介しますが、福島区役所のホームページでは、全員の感想文を公開していますので、ぜひお読みください。

八阪中学校 3年生 木下 千嘉

三日間、非常に有意義な学習を体験させて頂きました。最初に訪れた千年希望の丘相野釜公園慰霊碑では、私は献花をさせて頂きました。献花台横の慰霊碑には、沢山の亡くなった方々のお名前が刻まれていました。そこで親族を亡くされた方からお話をうかがいました。「慰霊碑を見て、多くの方が亡くなったと思うのではなく、一人ひとりの人生が、震災で突然断たれてしまった、そして今も家族はここでその人を思い、生活している。」と聞き、私の心に響きました。辛い経験を話してくださる方の気持ちに触れ、これからの三日間、しっかりと学ぼうと決意しました。震災遺構の学校では、先生方が生徒五十八人の「命と心」を守ったお話を聞きながら校内を回り、この建物に対する工夫や震災への準備があったことから守られた命があることを知り、「幸運」は自ら作ることが大切だと大きな気付きがありました。そして今回の訪問で一番、心に残った言葉は「人の心の底に人を思う気持ちがあり、いざとなったら知らない人でも繋がることができる。」です。この言葉は、ボランティアの受け入れや虹を形にした遊具を製作している「チームわたほい」の代表、遠藤さんから門脇小学校で聞きました。私は、これまで「危機に直面した時、知らない人を助ける為の行動をとれるのか？」と思っていました。しかし、実際に大きな災害で地域の方々を助け、支援された遠藤さんからの言葉を聞き、心を打たれました。テレビや新聞で見聞きした時とは心の動きが大きく違いました。「私は動く！自分が何をすべきなのか、常に考えることが大切！私はこのことを忘れない。」と強く思いました。人は災害に勝つことはできませんが、「負けないこと」は出来ます。防災を忘れないことなく生活していき、安心して暮らせる福島区のために役に立てるようになりたいです。このような機会を与えてくださった地域、区役所の皆さん、ありがとうございました。



感想文のホームページ

「中学生体験学習事業」にご協力いただいた皆さま

皆さまから温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

【ご寄附いただいた皆さま】

(今回の氏名等掲載につきまして、令和5年8月末までに、個人で1万円、法人で3万円以上当事業にご寄附いただいた方のうち、氏名の公表をご承いただいた方のみ掲載しております)

〈法人〉光洋電機工業株式会社 様 〈個人〉藤 三郎 様

【参加生徒の現地食事代にご協力いただいた皆さま】

福島区地域振興会 八阪中学校 PTA 下福島中学校 PTA 野田中学校 PTA

引き続き、被災地を訪問し防災やSDGsに関して学ぶため「中学生体験学習事業」への寄附を募集しています。

区内の中学生が自主性やまちづくり、SDGsなどへの関心を一層高められるような事業を実施する予定ですので、ご協力をお願いします。詳しくは福島区役所にお問い合わせいただくか、福島区役所ホームページをご覧ください。



寄附募集のホームページ

第1回

大阪市福島区

中学生体験学習事業のご報告

@宮城県



千年希望の丘相野釜公園慰霊碑

令和5年8月1日から3日までの3日間、福島区内3中学校から3名ずつ合計9名の中学生が、東日本大震災の被災地である宮城県を訪問し体験学習を行いました。今年度からこれまでの防災に関する学習に加え、SDGsに関する意識の向上についても学習しました。

参加した生徒たちが現地で直接見た被災地の状況や、現地で直接聞いた被災者のお話、身近な取組などがSDGsにつながっていることを学びましたので、そこで得た経験をこのリーフレットでお伝えします。

1日目

8:10 出発式（福島区役所）
↓
10:00 伊丹空港出発
↓
11:15 仙台空港到着
↓
11:45 昼食
↓
13:06 千年希望の丘相野釜公園慰霊碑（献花）
↓
14:10 中浜小学校見学
↳ 被災した校舎を見学
16:40
↓
17:30 講演：東日本大震災について
↓
19:00 夕食
↓
20:00 振り返りミーティング
↓
21:00 1日目のプログラム終了

2日目

7:00 朝食
↓
9:40 塩竈市津波防災センターを見学
↓
11:40 昼食
↓
12:30 松島蒲鉾本舗
(笹かまぼこ手焼き体験)
↳ 魚食文化の大切さを学ぶ
↓
15:15 門脇小学校
↳ 地域住民にインタビュー
↓
18:40 夕食
↓
20:00 振り返りミーティング
↓
21:00 2日目のプログラム終了

3日目

7:00 朝食
↓
9:30 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館見学
↓
12:30 昼食 〜仙台市へ〜
↓
15:20 仙台空港出発
↓
17:20 伊丹空港到着
↓
18:15 帰阪式（福島区役所）



岩手県 気仙沼市 石巻市 塩竈市 山元町 仙台空港 松島町 山形県 福島県



中学生体験学習事業の様子は福島区役所ホームページでも掲載しています。ご覧ください。

参加中学生氏名（中学校ごとに50音順）

- 八阪中学校……………陰山 一輝（2年）・木下 千嘉（3年）・山岡 菜々（3年）
- 下福島中学校……………飯田 真帆（2年）・川島 彩楽（3年）・後藤 大輝（2年）
- 野田中学校……………任海 冬日（3年）・溝辺 剛蔵（3年）・森内 結香（2年）

1日目 宮城県山元町へ

【千年希望の丘相野釜公園慰霊碑で献花】

最初に「千年希望の丘相野釜公園慰霊碑」を訪れました。

中学生が慰霊碑の前で黙とうをした後、今回の体験学習の代表者である八阪中学校3年生の木下さんが献花をしました。(写真①)

この地には9mもの津波が押し寄せました。ここで親戚の方を亡くされた方からその当時の状況や今の心境などについて体験談をお聞きしました。(写真②)

【中浜小学校での学習】

次に山元町の震災遺構である中浜小学校に見学に行きました。(写真③)

この中浜小学校は、海から400mのところには位置していますが、小学校の建替えをする際、保護者たちの希望により、2m盛り土をして学校を建てたそうです。そして、震災の際は、停電になる前に校長先生がテレビで10分後に津波が来るとの情報を得、下校していなかった生徒と教職員、避難してきた住民らを屋上に避難するよう指示しました。避難できた90人全員が誰一人欠けることなく助かったそうです。幸運にもこの盛り土と停電の時間、校長先生の判断が重なり、90人の命を救いました。

震災当日、この屋上への階段を90名が上りました。(写真④) そのときの津波の高さは約10mあったそうです。

寒さと余震の中、屋上で助かった90名は、屋上からつながっている屋根裏倉庫の冷たい床の上で一夜を過ごしました。

小学校の1階部分では、柱に鉄骨が巻付いていました。(写真⑤)

これは元からここにあったものではなく、どこからか流れてきたものです。鉄骨は津波の威力で曲がってしまったそうです。これを見ることにより、津波の流れの方向を知る手がかりや、津波は様々なものを巻き込みながら襲ってくるのが分かります。

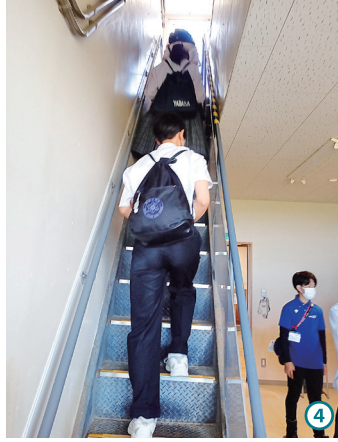
また、津波の威力で2トンもある石碑が流されました。津波の恐ろしさや威力を伝えるため当時のままにしています。(写真⑥)

また、中浜小学校は2013年に廃校になりました。校区内は災害危険区域に認定され、居住することができなくなったためです。山元町では、住まい・交通・公共サービス・商業施設などの生活機能をコンパクトに集約し、効率化したコンパクトシティを建設しています。

【講演：東日本大震災について】

1日目最後の学習は、日本基督教団石巻栄光教会主任担任講師の川上さんから、東日本大震災についての講演をお聞きしました。津波被害と原発による放射能被害などについて講演していただきました。

難しい内容もありましたが、理解しようと真摯に聞きました。(写真⑦)



2日目 塩竈市～石巻市へ

【塩竈市津波防災センターでの学習】

2日目の最初の行程は、塩竈市津波防災センターです。この施設には震災後1週間に焦点をあてた映像や提示物があります。ここでは「津波が来たら高台に逃げる。自分自身の身を守ることを第一前提とする。」ということをお教えいただきました。また、震災後7日間にどのような生活や行動をしていたのか、家庭で備えておく非常時の生活用品について学びました。(写真⑧、⑨、⑩)

【SDGsの学習 松島蒲鉾本舗での学習・ワークショップ】

次に松島町に移動し、松島蒲鉾本舗において、SDGsの学習として笹かまぼこの手焼き体験を経験し、魚の消費量が減少しているため食文化の大切さ、そしてすり身として頭から骨まで食べることに、取った魚を粗末にしないということを学びました。その後、バスに戻って今回の体験の振り返りとSDGsに関するワークショップをしました。

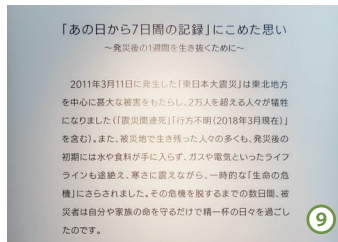
ワークショップでは違う学校の生徒と教師で3つのグループに分かれ、SDGsの17の目標のうち、グループ内で特に大事であると思う4つの目標とその目標を選択した理由について考え、話し合いをしました。話し合いの後、考えた結果をグループごとに発表しました。(写真⑪)

【地元住民へインタビュー～門脇小学校～】

2日目の最後の訪問先は、石巻市震災遺構の門脇小学校です。

この小学校は津波と火災の両方の災害を経験した貴重な建物です。震災時、先に下校した児童を除き生徒224名と教職員20名が、日頃からの避難訓練の成果により安全な場所に避難し助かりました。

この施設では、津波に流された消防車や自家用車などや津波火災により全焼してしまった教室を見せてい



3日目 気仙沼市

【気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館での学習】

最後の訪問先は気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館です。

この場所には気仙沼向洋高校があり、震災当時、校舎の3階まで津波が襲ってきました。そして、津波により3階の校舎まで流された車のある教室を見学しました。(写真⑫、⑬)

当時屋上に避難していた生徒、教職員、工事関係者らは迫りくる津波が屋上を越えるのではないかとあって、さらに上の方に避難しました。実際には屋上まで津波は来なかったのですが、それくらい津波は高く襲っ

たきました。(写真⑫、⑬、⑭) 火事になったのは津波により流されてきた家や車から火がついたからだと言われています。これほどの火事であっても、金庫の中の卒業証書は無事であったため、予定していた卒業式の約1か月後に行われた卒業式では、無事卒業証書を渡すことができたそうです。(写真⑮)

施設を見学した後、地元の住民である遠藤伸一さんの体験談をお聞きし、インタビューをさせていただきました。

遠藤さんは3人の子どもを津波に亡くされたそうです。1番下の女の子は遠藤さんのお母さんの腕の中で冷たくなっており、1番上の女の子は家の中で遺体となって発見されたそうです。でも、2番目の男の子は10日間ほど見つからなかったそうです。遠藤さんはすぐに3人の子どもが見つかったら、その時に死んでいたかもしれないと話されていました。また、2番目の男の子の遺体が見つかった後も、死のうかと思ったそうですが、同じ避難所に避難していた方が遠藤さんを一人にしたら死んでしまうかもしれないと言い、必ず誰かがそばにいてくれたそうです。そういった人の温かさを感じた遠藤さんは、今は配偶者とともに津波で親などを亡くした子どもたちの居場所づくりをされています。(写真⑯) 中学生達は「子どもを亡くしてどうやって立ち直ったのか」、「親を亡くした子どもたちにどう伝えているのか」や、「全然知らない人と助け合いはできないと思うが、近所の人たちとのつながりがあったのか、またそういったコミュニティはあったのか」などの質問をしました。遠藤さんは、「支えてくれる人がたくさんいてくれたから立ち直れた。」「子どもを一人にしない、子どもに対しては自分の宝物だと言っている。子どもが話したいタイミングを大事にし、話したいときに話を聞くようにしている。」「近所だけでなく、色々な場所の人がいたので、近所やコミュニティなどの垣根など関係なく協力できた」と答えてくれました。最後に、遠藤さんは訪問した中学生達に「君たちは両親の宝物であるし、今日僕と知り合ったので、僕の宝物でもあります。」と言ってくれました。

